

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	FLOW西真美			
○保護者評価実施期間	2026年2月1日 ~ 2026年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55人	(回答者数)	41人
○従業者評価実施期間	2026年2月1日 ~ 2026年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月26日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各種専門職(作業療法士・理学療法士・保育士)の視点から、1人ひとりのニーズや発達段階に応じたオーダーメイドの支援・応援の実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動の背景や理由について、専門的な視点からの分析と共感的な理解の実施。</li> <li>多職種連携を活かした多様な視点の共有とプログラム提案。</li> <li>目の前の1人ひとりの利用者の方のちょうどよいチャレンジの活動段階付けの工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援ごとの振り返りを充実し、活動の様子やチャレンジレベルについて振り返りや共有する機会を増やす。</li> <li>ニーズに応じた多様なプログラムの充実。 →感覚運動遊びから、机上プログラム、生活動作練習など多様なニーズに応答できるプログラムの充実を図る。</li> </ul>
2	「楽しい」と感じ、満足度の高い支援プログラムの実施、提供。	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚プロフィールや臨床観察など、客観的なアセスメントを行い、アセスメントに基づく活動の段階付けや環境設定、内的な要求などニーズに合わせたプログラム構成を行っている。</li> <li>「子どもが主役」を大切にし、自己決定・選択できるよう関わりや活動設定を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的なアセスメントの分析、考察を深堀し、より活動・参加につながる生活支援の視点、観点からプログラムの実施、提供が図れるように研鑽していく。</li> </ul>
3	保護者支援の充実と協働。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ごとの振り返りの時間を設け、活動と目標のつながりの振り返り、説明や、保護者の方との相談の機会を定期的に設けている。</li> <li>支援の参加、見学を積極的にすすめ、保護者の方とともに協働した支援を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的な視点は踏まえつつ、分かりやすい身近な言葉やエピソードを交えた説明の実施。</li> <li>保護者の方との信頼関係の構築。</li> <li>事業所での支援がより生活場面にもつながるように保護者の方との協働したホームプログラムの提供。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用されているお子さんの所属する園や移行支援としての小学校、地域の関連機関との連携について。	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属する園や小学校や関係機関との連携、特に情報収集や申し送りについて行いたいとは考えているもなかなかアクションを起こせずにいた。</li> <li>→相談支援への相談や連携を自分たちからつながっていくアクションの強化が必要だと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画相談支援の事業所等、連携しやすい関係づくりの構築を図っていく。</li> <li>地域とのつながり、関係づくりを意識して、自分たちのサービスの周知と連携強化を図っていく。</li> </ul>
2	事業所の取り組み活動の利用者さんへの周知について。 →各種委員会報告や研修報告、お知らせ等、情報の伝え方について。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在ホームページやSNSでのアナウンス、情報の発信を行っているが、必要な情報にアクセスしにくい、受け取りにくい場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページやSNS等情報発信の方法を見直す。 →文書だけになっていないか？視覚的に分かりやすいアナウンスになっているか？など。</li> <li>ホームページの構成を見直し、情報を分かりやすく整理する。</li> <li>地域との交流の機会を増やせるように工夫する。</li> </ul>
3	活動場面の安全対策の強化について。	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に活動が行えるように、環境調整等図っていく。</li> <li>→定期的な遊具・環境チェックから常に安全面の意識づけ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリハットなど、気づきの感度を高め、共有する。</li> <li>マットやコーナーガードなどしっかりと環境をカバーできているか？</li> <li>ヒヤリハットの共有から、次の活動場面での意識・行動・対策に活かしていく。</li> </ul>

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		FLOW西真美		公表日		R8年3月31日		利用児童数		55人		回収数		41名	
		チェック項目				ご意見		ご意見を踏まえた対応							
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない										
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	40	1											
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	38	2	1			先生が2人の時も1人の時もあるので、どういった決まりがあるのか分からない	配置基準は満たしており、個別支援の枠組みですが、活動等により安全面や視点共有のため2人体制での支援体制をとらせていただく場合がございます。						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	36	3	1	1		西真美の入り口がドアを開けたら、車がよく通る道路で、入れ替わりの子どもが飛び出しヒヤッとした場面がありました。入り口出た所に簡単なコーンやチェーンがあれば少しマシかなと思いまし	駐車スペースまで少し距離があり、車道も近い状況ですので、安全に通所いただけるようご意見いただいたコーン等の設置を検討させていただきます。						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	40	1											
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	41												
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	40				1								
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	41												
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	38	1			2								
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	39				2								
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	32	5			4	成長の過程での必要なことへ繋がる目標やプログラムを立て子供へアプローチして頂けることが何より嬉しいです。	ありがとうございます。発達段階や生活の様子に応じた1人ひとりに応じた専門的なプログラム提供を実施しております。						
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	18	6	10	7									
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	40	1											
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	39	1			1								
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19	7	2	13		子供参加型のイベントは多いです。	支援や発達に関する研修会の企画、実施や、ホームページのコラム掲載を通して困り感に対する背景・支援についての情報提供を行っております。						
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	41												
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	31	6			4	その日のフィードバックはとても丁寧に頂いています。ただ時間が足りないと感じる時期もあるので希望に沿って親との個別面談時間も設けて頂けると嬉しいです。そうすると先生方の数が不足ぎみになるのかなと思いました。子育てに悩んでとてもしんどかったときに、親身に相談のって、的確なアドバイスをくださり、本当に助かりました。	利用ごとに保護者の方と振り返りの時間を設けており、また適宜相談・面談の機会を設けております。利用時の振り返りでは限られた時間になりますので、必要に応じてお話しできる機会を設けていけるように、個別面談の機会や気軽に相談できる機会を増やしていけるように検討していきます。						
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	39	1			1								
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	6	4	15		私どもがあまり参加しないのでどちらともいえないにさせていただきます。	フェイスイベントを企画・開催しており、きょうだいの参加やご家族で参加し、楽しめる機会を設けております。						

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32	2	7	悩んだときに、すぐに相談できる時間を作っていました。親身に対応していただき、本当にありがたかったです。	必要な際に必要な相談や支援が行える体制と、支援ごとに日頃から療育の参加、見学や対話の時間を作るなどを積極的に行い子育てを協働していただけるようにサポートを体制を設けております。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37	1	3		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	31	2	8	いつも簡潔に丁寧に書いて下さっています。プラスの面だけでなく苦手面や解決方向など専門の先生方からの見方も書いて頂けると嬉しいです。	アプリやSNSを用いて活動の様子や情報発信、共有を行っております。個別の活動報告につきまして、目標につながるステップや背景も踏まえた支援共有を行えるよう検討していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	37	1	3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	1	12	訓練が実施されているかはわかりません。	各種委員会からマニュアル作成と年間活動計画に基づく委員会活動と、適宜訓練の実施を行っております。訓練時の様子につきましては事業所掲示とSNSでの活動報告を行っております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25		16		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	35		6	今年から外部からの入室においては呼び出しで中からしか開けられないとなったので部外者の侵入などは安心になりました。	安全にご利用いただけるように、事業所活動及び、事業所の防犯体制を委員会活動も設け対策を実施しております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31	1	9	まだそういった場面が生じていないのでわかりません。	事故等発生時は速やかな報告体制と、協力医療機関や迅速に適切な対応がとれるように体制を整え、実行しております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	41				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	40	1		前日から待ち遠しく、楽しそうに話していますとても楽しんで行っています！ ひより1人の目標につながる支援を楽しみながら実践していけるように、ひとり1人に応じたオーダーメイドの専門的な支援プログラムを提供できるように取り組んでいます！ フローが大好きで、いつも喜んでいきます！	ありがとうございます。 ひとり1人の目標につながる支援を楽しみながら実践していけるように、ひとり1人に応じたオーダーメイドの専門的な支援プログラムを提供できるように取り組んでいます！
	29	事業所の支援に満足していますか。	40	1		お願いしていたことや、相談事など、関わることのある複数の先生の間で情報共有がされていないのかな？と思うことがたまにあります。	ご意見ありがとうございます。 事業所全体での情報共有と支援・応援体制をより充実していけるように、職員間での情報共有体制を徹底していきます。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		FLOW西真美				公表日	2026年3月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	4	玄関からのトイレ、相談室の動線はバリアフリーになっており、表示など構造化の工夫を行っている。	入口を入ってすぐに療育室までが手すりは付いているが階段になっている。事業所内外に階段がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		利用開始前・後、セッション後の清掃を実施している。子どもたちの活動に合わせてマットや物置き場など安全にまた分かりやすく活動できる構造化の工夫をしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		相談室があり、そこで机上の活動をする事も出来る。	活動内容や場所を自己選択・決定や相談ができるように、選択方法を工夫し、1人ひとりのお子さんが自ら意思表示と決定できるように工夫していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	定期的に事業所内でミーティングを開催し、業務の役割分担や見直しなど業務改善について検討する機会を職員参加で行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	普段から職員間で意見を出し合い、相談出来る雰囲気が出来ている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	第三者委員会を設置していない。	必要に応じて検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		職員研修とは別に、わからないことや別の意見を聞くことが普段から出来、お互い聞き合い勉強できる環境である。支援技術や知識について会社で職員研修会を定期的に関		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムの作成とホームページにて公開している。	周知しやすい方法について検討していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		専門的な視点を活かしたアセスメントを実施し、		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		ミーティングや朝礼・終礼の機会を通して目標や支援の方針について、共有・検討できる機会を設けている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画書は利用児の個々のファイルに入れ、すぐに手に取れるようにしている。また計画書が新しく変わった時も随時個々のファイルに入れ、いつでも最新の計画書を見られる状態にしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		感覚プロファイルや臨床観察等を通して、お子さんの行動の背景を客観的に捉えるアセスメントツールと視点共有を活用している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインの5領域との関連性を踏まえた支援項目や内容を計画書に反映し、目標設定を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		各専門職の視点を活かしてプログラム立案を行っている。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		お子さんの様子や状況、目標に応じて、遊びを手段としたオーダーメイドなプログラム提供を行っている。各種専門職の視点を活かしたプログラム提供を行い、固定化しないように工夫している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			その日一緒に入るメンバーでどのようなことをねらいにしようかなど、療育前に話し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			療育終了後や業務終了後に、ヒヤリハット・今日の良かった点や改善点などを出し合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			職員間の共有の欄に記入したり、次週にどのようにつなげるかなどを話し合っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			必要であれば利用児の通園施設や相談支援員と情報共有している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2		保護者を通して共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5				必要に応じて頻度や方法など工夫していけるように検討を行っている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5			園との交流は無いが、同室児との関わりや年に一度開催しているフェスで子ども同士の交流する機会がある。普段の療育時はないがイベントは事業所の利用に関わらず参加いただけるため地域のこどもと活動する機会になっている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			療育後に必ずフィードバックの時間を設けており、そこで保護者と話すことを大切にしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			研修会情報など必要な情報提供は掲示等での共有を行っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			利用計画の際に重要事項説明書にて十分な説明を行い、同意を得てから契約手続きを行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		必ず支援計画書を提示し、記載内容に沿った説明を行い、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		療育後に必ずフィードバックの時間を設けており、そこで保護者と話すことを大切にしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会としての開催はないが、年に1回フェスイベントを企画・開催し、利用の有無にかかわらずきょうだいの方も参加・交流可能な機会を設けている。	イベントの開催はするが、交流するかは保護者の自主性による。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		必要であれば家族支援としてお話を聞く時間を設けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		公式ラインを通してお知らせをしたり、インスタグラムで施設の紹介を定期的に行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報保護について、職員間でどのような情報が個人情報にあたるか、どう取り扱うかについて確認し、扱いについて十分留意を行っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		視覚情報等の活用や感覚的なコミュニケーションなど意思伝達・表現のための工夫を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		年に一度フェスを開催している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種委員会を設定し、マニュアル策定と利用者の方への情報周知、定期的な訓練実施を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCP策定と年間計画に基づく委員会活動、訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		利用契約の際に、必要事項の確認を行い、事業所共有を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	食事を提供することはないが、確認し、使用物品等でのアレルギー源への接触がないか確認・配慮している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		委員会にて必要な研修・対応・情報共有を行っている。定期的な遊具点検や活動環境のチェックなど必要な安全対策を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画を策定し対応している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		業務終了時の終礼で共有することを徹底している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		委員会にて必要な研修・対応・情報共有を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	契約時に説明と了解を得ているが、計画書には必要な児童のみの記載している。		